

I 演習の目的

各位が問題意識を持って研究に取り組み、それぞれの所属組織に有益な成果をフィードバックすること、それに資する専門職学位論文を執筆することが目的です。

専門職大学院における学位論文は、純粋なアカデミックな論文とは違い、実践的に“役立つ”具体的な示唆やそのためのアクションプランを導出することが何よりも重要です。ただ、それらができる前提として、なぜそうした示唆が正しいと言えるのかを、誰もが納得する形で客観的・論理的にきっちり示すことが必要になります。

そのための重要なポイントは、現場で各位が抱えている問題を、実務的な問題意識から少し離れて冷めた眼で観察し、そこに絡む諸要因を科学的に分析することです。日常の実践での（ある意味、凝り固まった）ものの見方を排し、ゼミでの議論をしながら科学の眼を養うことが MBA 上林ゼミの主眼となります。

II スケジュールと概要

概ね以下のような流れで進めます。日程は確定していますが、各時限のコンテンツは変更する可能性もあります（変更する場合には事前に周知します）。

第1回：2024年9月14日

【目標】 MBA で「研究する」とはどういうことなのか理解しよう。

【事前課題】 以下の2点について準備してきてください。

- (1) 以下の論文を各自で入手し、一読してきてください：上林憲雄（2017）「神戸大学 MBA で学ぶ」『日本労務学会誌』Vol. 18, No. 2, 30～47 頁（インターネットで J-Stage 等から無料 DL 可能）。
- (2) 各自の自己紹介プレゼン用の PPT 資料を作成してきてください。（研究計画書をもとに簡単な5分間ほどの紹介。スライド枚数は最大5枚程度。名前や所属・経歴等の自己紹介以外に、①研究の背景（問題意識）、②研究テーマと研究課題（リサーチクエスチョン）、③結論のイメージと実践への役立て方、の3点に絞って。資料の作成にあたっては上記(1)の論文もできる限り参考にすること。）

【スケジュール】

- ・ 1 限：研究とは何か（上林およびゲスト講師より講義）。ゲスト講師：三輪卓己先生（桃山学院大学教授。神戸大学 MBA の大先輩であります。）
- ・ 2 限：各自より自己紹介のプレゼン
- ・ 3～5 限：M2 生ポスター発表の見学

【事後課題】

M2 生ポスター発表の見学を受け、印象に残った研究は誰のこういった研究か、その研究は自身にとって、どのように印象に残ったかを考え、A4 一枚以内に纏めたうえ、メール添付で TA まで提出してください（提出締切：9月21日）。

第2回：2024年10月12日

【目標】研究テーマを定め、解きたい問いを明確にしよう。

【事前課題】以下の2点について準備してきてください。

(1) 以下の①を入手し、一読してきてください。可能なら②・③も入手し、目を通してきてください(③は古い文献ですが、論文の審査基準について上林も寄稿しています)。

① 小熊英二 (2022)『基礎からわかる論文の書き方』講談社。

② 伊丹敬之 (2001)『創造的論文の書き方』有斐閣。

③ 片岡信之・齋藤毅憲・佐々木恒男・高橋由明・渡辺峻編著 (2004)『経営・商学系大学院生のための論文作成ガイドブック』文眞堂。

(2) 3～5限に行うプレゼンの準備をしてきてください(以下の【スケジュール】欄を参照)。

【スケジュール】

- ・ 1～2限：研究テーマ・研究課題について(上林およびゲスト講師より講義)。ゲスト講師：庭本佳子先生。
- ・ 3～5限：各位よりプレゼン(前回の【事後課題】+研究構想)。研究構想については、とりわけ以下の点を中心に準備してきてください。1人10分プレゼン、10分弱ディスカッションを目安とします(前回の【事後課題】については、ごく簡潔な言及(1分程度)で結構です)。
 - ① 私が取り組みたい研究テーマは何か。なぜそのテーマに取り組もうとしているのか。
 - ② 研究テーマをもとに、どのような具体的研究課題が設定できそうか。
 - ③ その研究に取り組むことにどのような意義があるのか(どう「役立つ」のか)。

【事後課題】

各位の研究構想について、A4一枚程度のフィードバックレポート(本日のゼミでの気づき、今後やるべき課題)を作成し、メール添付でTAまで提出してください(提出締切：10月19日)。

第3回：2024年12月7日

【目標】研究テーマに関する「知の到達点」を調べよう。

【事前課題】3～5限に行うプレゼンの準備をしてきてください(以下の【スケジュール】欄を参照)。

【スケジュール】

- ・ 1～2限：先行研究の調べ方について(上林およびTA・ゲストTAより)。文献データベースの概説とWeb of Science等のデータベースの使い方(40分、米田さん)、文献管理ソフトZoteroの使い方(50分、松本さん)、文献レビューの仕方と引用ルールについて解説&演習(90分、堂西さん)。
- ・ 3～5限：各位よりプレゼン(研究構想の深化について)。以下の点を中心に準備してきてください。1人10分プレゼン、10分弱ディスカッションを目安とします。
 - ① 取り組みたい研究テーマに関する参考文献(論文、書籍)としてどのようなものがあるか(ひとまず5個程度)。教科書的な書籍や学術的背景の薄いビジネス書の類は除外してください。
 - ② 各文献には、概ねどのようなことまでわかっていて、どのような点が(自身の問題意識に照らせば)足りていなさそうか(ざっと目次やアブストラクトを見て判断)。

【事後課題】

各位の研究構想の深化について、A4一枚程度のフィードバックレポート(本日のゼミでの気づき、今

後やるべき課題)を作成し、メール添付でTAまで提出してください(提出締切:12月14日)。

第4回:2025年2月15日

【目標】研究方法論を理解し、研究構想を完成させよう。

【事前課題】以下の2点について準備してきてください。

(1)以下の①の書籍を入手し、(可能なら②・③も入手し)ざっと目を通してきてください。

① 須田敏子(2019)『マネジメント研究への招待—研究方法の種類と選択—』中央経済社。

② 梅崎修・池田心豪・藤本真編著(2020)『労働・職場調査ガイドブック』中央経済社。

③ 田村正紀(2006)『リサーチ・デザイン—経営知識創造の基本技術—』白桃書房。

(2)1~2限に行うプレゼンの準備をしてきてください(以下の【スケジュール】欄を参照)。

【スケジュール】

- ・ 1~2限:各位よりプレゼン(研究課題への接近方法について)。以下の点を中心に準備してきてください。1人5分プレゼン,5分コメント(上林およびRA各位より)を目安とします。
 - ① これまでのディスカッションを踏まえ、研究構想をどのように深化させたか。
 - ② どのような方法論に基づけば、自身の研究課題への解を導出できそうか。なぜそのように考えられるか。
- ・ 3~5限:具体的に研究で使える方法について(TAおよびゲストTAより)。研究方法論の全般的概説,ケーススタディおよび事例のプロセス記述について(90分,米田さん),テキスト分析について(90分,松本さん),心理統計の基礎について(90分,堂西さん)。

【事後課題】

研究デザインを完成させ、A4用紙2ページ以内に纏め、メール添付でTAまで提出してください。当初に提出していた研究計画書をリバイズするイメージです。「研究テーマと研究課題」・「渉猟すべき主要な先行研究の諸系譜」・「研究方法」・「現時点で想定される結論とその実践的含意」の各項目を必ず盛り込んでください。M2では原則これに沿って(随時更新しながら)、研究を進めていってまいります(提出締切:2月22日)。

2025年4月以降(M2)

各位の研究の進捗状況を毎度のゼミで報告してもらいます。個別指導と全体指導を組み合わせながらゼミを進めていきます。4月~8月上旬の、原則土曜午後3~5限、全12日分とする予定です(1クールでゼミ生全員が報告します)。大まかな流れは以下のとおりです:

第1クール(修士論文の全体デザインの確定:4月~5月,全5回)

↓

第2クール(先行研究の批判的吟味,6月,全2回),

↓

卓越論文候補中間発表会(ゼミから3名)

↓

第3クール(データの収集・分析・解釈,7月,全2回)

↓
ゼミ合宿（7月末に1泊2日，2回換算）

↓
最終回（個別相談会，8月，1回）

具体的なスケジュールは2025年2月末までに確定し，お伝えします。

Ⅲ その他，注意事項等

- ▶ 各ゼミ日に参照すべき文献等は以上に示しましたが，このほか上林の研究遍歴や考え方を知りたい受講生は，以下の書籍を参考にしてください。
 - ▶ 経営学全般の体系や基礎知識を知りたい方へ：
上林憲雄ほか（2018）『経験から学ぶ経営学入門（第2版）』有斐閣。（2024年度中に第3版へ改訂予定）
 - ▶ 人的資源管理論の基礎を知りたい方へ：
 - 上林憲雄・厨子直之・森田雅也（2018）『経験から学ぶ人的資源管理（新版）』有斐閣（2024年度中に第3版へ改訂予定）。
 - 上林憲雄編著（2015）『人的資源管理（ベーシックプラス）』中央経済社（2024年度中に第2版（上林・庭本編著）に改訂予定）。
 - ▶ 経営組織論の基礎を知りたい方へ：
上林憲雄・庭本佳子編著（2020）『経営組織入門』文真堂。
 - ▶ 最近の日本の人事システムの変容について：
上林憲雄・平野光俊編著（2019）『日本の人事システム—その伝統と革新—』同文館出版。
 - ▶ 経営学における「人間」の取り扱い方の歴史の変遷を知りたい方へ：
上林憲雄編著（2021）『人間と経営—私たちはどこへ向かうのか—』文真堂。
 - ▶ 人事戦略の具体的ケースを知りたい方へ：
上林憲雄・三輪卓己編著（2015）『ケーススタディ 優良・成長企業の人事戦略』税務経理協会。
 - ▶ サステナブル経営やSDGs経営について
 - 上林憲雄・小松章編著（2022）『SDGsの経営学』千倉書房。
 - 西尾チヅル・上林憲雄編著（2024）『サステナブル経営』同文館出版（近刊）。

より詳細なリストは，researchmapに掲載されていますので参照してください：

https://researchmap.jp/noriokambayashi/books_etc

- ▶ TA（Teaching Assistant）は皆さんのゼミでの学修を支援くださる大学院一般ゼミ生です。上林ゼミでは，松本拓未さんをお願いしています。事後課題等の提出物はTA学生宛てにメールで提出してください（メールアドレスは別途お知らせします）。その他，博士課程後期課程の米田 晃さん，堂西晴香さん，中谷友香さんもゲストTAとして随時ゼミにご参加，ご支援くださいます。

- ゼミに随時ご参加いただく先生方 (RA: Research Advisor) は以下の通りです。毎回参加いただけるとは限りませんが、皆さんの研究にコメントやアドバイスの形でご支援を頂きます。
- ・ 三輪卓己先生 (桃山学院大学経営学部教授)
 - ・ 高階利徳先生 (兵庫県立大学国際商経学部教授)
 - ・ 千田直毅先生 (神戸学院大学経営学部教授)
 - ・ 厨子直之先生 (和歌山大学経済学部教授)
 - ・ 福井直人先生 (神戸学院大学経営学部准教授)
 - ・ 庭本佳子先生 (神戸大学大学院経営学研究科准教授)
 - ・ 森谷周一先生 (関西学院大学商学部准教授)
 - ・ 島田善道先生 (大阪学院大学経営学部准教授)
 - ・ 浅井希和子先生 (大阪商業大学総合経営学部助教)
 - ・ 太田侑樹先生 (龍谷大学経営学部講師)
- 専門職学位論文は公開することが大原則です。公開できない研究は、単なるレポートに過ぎず、真の意味で「論文」とは呼びません。研究構想をデザインする段階から、必ず公開される (即ち第三者が自分の発見した知見を参照し、活用したり批判したりする) ということを念頭に置いて具体的な研究計画を練るようにしてください。
- 言わずもがなですが、ゼミの皆さんは神戸大学の一員として「神戸大学の学術研究に係る行動規範」を遵守しなければなりません。論文の執筆にあたり、盗用や剽窃、捏造といった不正行為が無いよう、くれぐれも気を付けてください。たとえ無意識的であっても、また事後的に発覚した場合であっても、処分の対象となり学位は取り消されます：
- <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/research/compliance/regulations/>
- 上林のこれまで 30 余年に及ぶゼミ指導の経験上、他者の研究内容にも関心を持ち、いろいろと質疑を投げかけることができる学生さんほど優れた研究論文を執筆します。自身の研究だけではなく、他者の報告にも関心を持ってゼミに参加いただければと願っています。

一緒に頑張りましょう！

以上